

DXF ツール バージョン 8.0.0 更新記録

2014/07/22
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>

1. Windows8.1、Java8 対応

インストーラが Windows8 に対応しました。インストーラの名前は

GeoCoach3D-DXF-T8-*-*-.setup.exe (*は数値)

となります。

インストーラを作成するソフトウェアを変更したので、インストールには数分かかる場合があります。インストール説明書も更新しました。

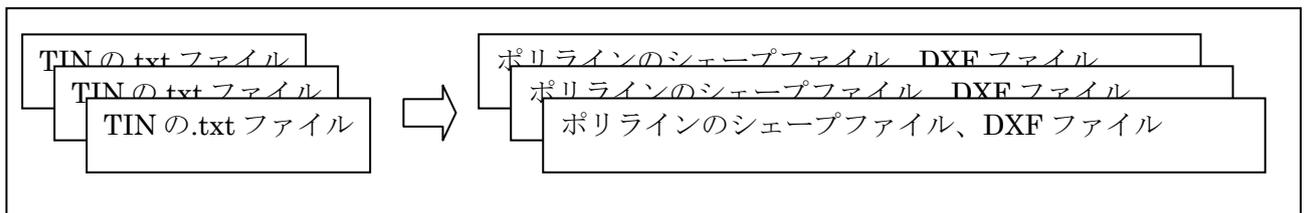
<http://www.geocoach.co.jp/download/GeoCoach3D-series-8-install.pdf>

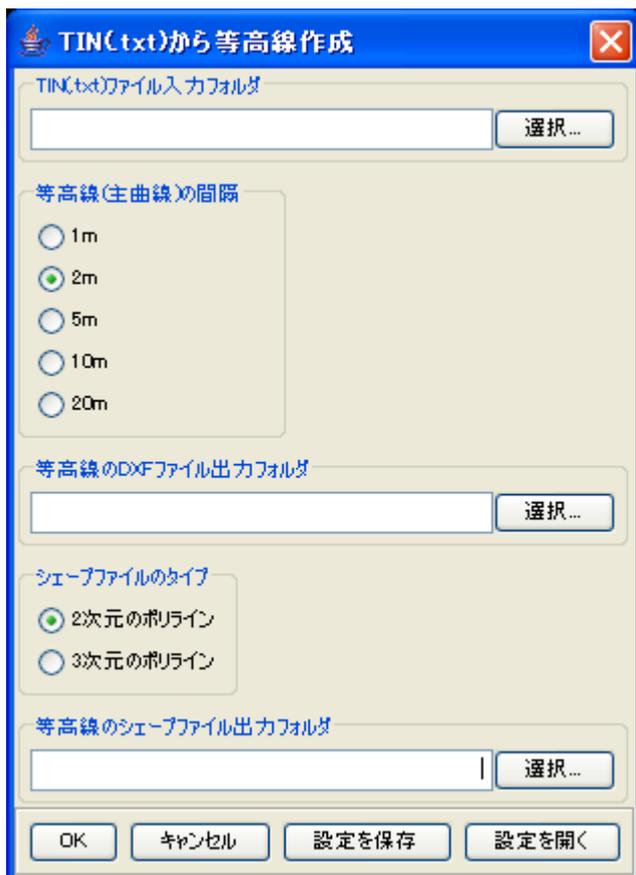
また、Java のバージョン 8(あるいは 1.8)でも動くようにしました。

2. メニュー「TIN(.txt)から等高線作成」

新メニュー「DXF へ変換」に「TIN(.txt)から等高線作成」を追加しました。TIN の .txt ファイルから等高線を発生し、ポリラインのシェープファイルを作成します。以下、説明書から抜粋です。

TIN の .txt ファイルから等高線を発生し、ポリラインのシェープファイルと DXF ファイルを作成します。





TIN(.txt)ファイル入力フォルダ

拡張子が.txtのTINファイルのフォルダを指定します。指定されたフォルダ内の.txtファイルを参照します。

等高線の間隔

作成する等高線の標高値の間隔を指定します。主曲線の間隔です。

等高線のDXFファイル出力フォルダ

等高線のDXFファイルを作成するフォルダを指定します。空白の場合はDXFを作成しません。

シェープファイルの対応

保存するシェープファイルのタイプを指定します。

等高線のシェープファイル出力フォルダ

等高線のシェープファイルを作成するフォルダを指定します。空白の場合はシェープファイルを作成しません。

TINの.txtファイル別に等高線を作成し、同じ名前の.dxf, .shpを作成します。

TINの.txtファイルについて

- 一行に一個の三角形を記録します
- 座標値は測量座標でYXZYXZYXZ(数学座標でXYZYXZYXZ)の順です
- 3点は上空から見て反時計回り、あるいは時計回りが保存時に指定できます。
- XYZ値は小数点以下3桁で、値の間にスペースを一個挿入します。(バージョン1.38までは、XY値は14コラム、Z値は12コラムで、小数点以下3桁、右詰でした)

-92681.510	22557.600	10.000	-92680.660	22555.620	12.000	-92687.160	22500.000	10.000
-92687.160	22500.000	10.000	-92686.240	22527.350	8.000	-92681.510	22557.600	10.000
-92409.640	22639.290	110.000	-92412.760	22641.500	108.000	-92409.640	22641.470	110.000
-92409.640	22641.470	110.000	-92412.760	22641.500	108.000	-92412.280	22646.750	110.000
-92412.280	22646.750	110.000	-92408.950	22647.540	112.000	-92409.640	22641.470	110.000

このフォーマットのファイルを開く際には、空白を区切りとしてリードしています。また、反時計回りか時計回りを判定し、両方に対応しています。

TIN ファイルのリードについては、上記の形式で行の先頭に整数値が入って、一行が 10 項目になっている場合にも対応しています。この場合、最初の整数値の桁数や値に制限はありません。

1	-92681.510	22557.600	10.000	-92680.660	22555.620	12.000	-92687.160	22500.000	10.000
2	-92687.160	22500.000	10.000	-92686.240	22527.350	8.000	-92681.510	22557.600	10.000
3	-92409.540	22639.290	110.000	-92412.760	22641.500	108.000	-92409.640	22641.470	110.000
4	-92409.640	22641.470	110.000	-92412.760	22641.500	108.000	-92412.280	22646.750	110.000
5	-92412.280	22646.750	110.000	-92408.950	22647.540	112.000	-92409.640	22641.470	110.000

DXF ファイルは次のレイヤにポリラインエンティティを出力します。ポリラインの Z 値に等高線の Z 値をセットします。

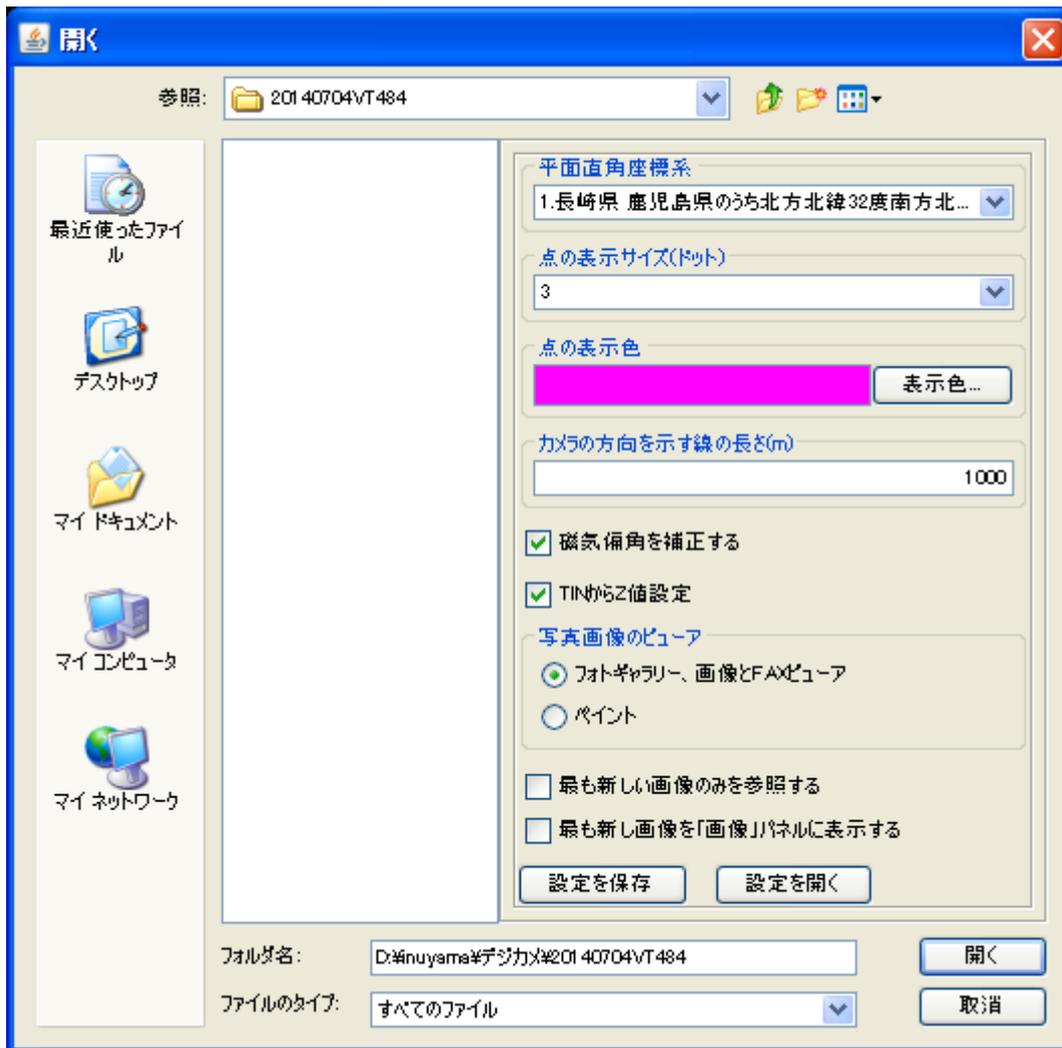
レイヤ名	色	内容
計曲線	シアン	等高線の間隔が 2m の場合、10m 間隔 等高線の間隔が 5m の場合、25m 間隔
主曲線	緑	上記以外の等高線

シェープファイルには次のフィールドを記録します。

フィールド名	型	内容
分類コード	数値	7101 (計曲線の場合) 7102 (主曲線の場合)
標高値	数値	標高値。メートル単位。

3. メニュー「開く 写真Exif」

「ファイル」メニューに「開く 写真 Exif」を追加しました。



指定したフォルダ内の JPEG ファイルを参照し、緯度経度の情報があれば、撮影位置を「3D 表示」パネルに表示します。

また、ウィンドウ右側に「画像」パネルを追加しました。「開く 写真 Exif」で表示している点を選択すると、該当する画像を表示します。



詳しくは次の説明書を見てください。

<http://www.geocoach.co.jp/download/GeoCoach3D-series-8-exif.pdf>

4. チェックリスト保存(DXF)

メニュー「ファイル」・「チェックリスト保存」・「チェックリスト保存(DXF)」を追加しました。

チェックリスト保存(DXF)

DXF ファイルのポイントエンティティ円エンティティあるいは文字列をテキストエンティティとして保存します。DXF では[チェックリスト]パネルの情報はレイヤ”0”で出力します。[チェックリストのポリライン]は、チェックリストパネルに対応する3D表示で位置を示す点と関連する線が表示されている場合、使用できます。この線をポリラインエンティティとして保存します。同様に、[確認リスト]パネルの情報もレイヤ”1”に保存できます。CSV の行番号と対応がとれるように、テキストエンティティには[チェックリスト]に表示している文字列の前に、1からの通し番号を付けています。

